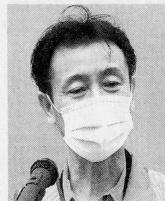


## 千建協 官民が有用性実感 ドローンの体験講習

圏央道の建設現場に飛び立つドローン



平山委員長

県建設業協会(高橋順一会長)は1日、国土交通省千葉国道事務所との共催によるUAV、いわゆるドローンの体験講習会を開いた。当日は官民

合わせて約30人の技術者が、ドローン使用に当たっての注意点を聞いたほか、実機を操縦してみるなどその有用性を実感。今後のICT施策を進めるに当たっての参考にするなどした。

会場は多古町喜多大原地区で、阿部建設(旭市)が施工する圏央道(横芝天栄間)の新造工事現場に設定。講義はコロナ禍で密になることを避けるためと、操縦体験などが可能な人数に配慮し、午前と午後の2回に分けて開かれた。

午前は国土交通省や県



体験用の小さなドローンを操縦してみる参加者

土整備部、千葉市を含む「県i-Construction推進協議会」のメンバーを中心に講義。

ドローンの運用に伴うシステムを扱う株式会社フライットの丹澤純代表が実機4台を用意、広大な現場で、オンライン会議用アプリ「Zoom」による配信も並行しながら、基礎的な航空法の知識と使用に当たっての許可が自治体や空港のそばであることなど条件ごとに異なることを説明した。

当日は天候にも恵まれたことから実機を飛行させ、高精度のカメラのほか、サーモセンサも搭載できる大型のドローンが、土砂崩れなどで人が被災するなど、工事だけでなく人命救助に夜間でも有用であることのほか、画像はオンラインで千葉市内の千葉国道事務所にも配信。遠隔による指示も可能なことを実証してみせた。

駆け付けた県建設業協会土木技術委員会の平山知太委員長は、地震やゲリラ豪雨など、自然災害発生時に正確な現場確認が必要となる機会が頻発する中、そのために有効となるドローンの知識をぜひ学んでほしいと、体験会の成果に期待を込めていた。